

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>I. 理念に基づく運営</p> <p>1. 理念と共有</p>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>スタッフ一人一人が意見を出し合い入居者の方が地域の中で自分らしく暮らしていけるよう心掛けながら理念を作成している。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>スタッフが日常的に意識できるようホーム玄関に理念を掲げ、実践と関連づけて支援することを心掛けている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>家族会や地域運営推進会議のときに理念を説明している。又、ホーム玄関に理念を提示しており、家族の方が挿絵をしてくれ初めて訪れた方にも親しみやすくしている。</p>	
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近隣住民の方への日常の挨拶や散歩・ゴミ捨てなどを通して付き合いをさせていただいている。時には掃除・花植えの手伝い、野菜や漬け物をわけて頂いている。</p>	○
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会に入らせていただき入居者と共にゴミ出し・ステーション立ちを行い、回覧板・広報の目を通し地域のイベントには必ず参加し、顔の見える関係作りをしている。ホームでの地域交流の行事には家に挨拶・電話連絡をしたりポスター・折込広告などを入れ参加のお願いをし、交流に努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	昨年度に地域の方への介護教室・中学校での福祉講義を実施している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ全員が意義を理解し前回・前々回の評価を生かしてサービスの質の向上に努めている。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・高齢対策課長・地域包括支援センターの方々に2ヶ月に一度運営推進会議に参加していただき実態報告・近況報告をさせていただいている。様々な意見を頂き、サービスにつなげている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外には電話連絡などで助言を求めることはあるが、行き来する機会は今も所行えていない。	○	今後話し合いの場を儲け、気軽に行き来できるような関係を築けるよう検討し、サービスの向上に努めたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修で学ぶ機会があり、スタッフに資料などを回覧しているが、個々の必要性を話し合ったり活用するまでには至っていない。	○	さらに理解を深めると共に今後必要になってくると考え関係者・スタッフでの話し合いの場を持っていきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会や日常的にも話し合い等している為見過ごしたりしないよう、細心の注意を払っている。高齢者虐待防止関連法は、勉強会をスタッフで行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には話し合いの場を確保十分に説明を行い理解・納得していただけるよう努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中で入居者が訴えていることを聞き出し、スタッフ間で相談し運営に反映させている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族へ向けての便りを出し、写真を添付し日常の様子と近況報告の便り・預かり残高の報告をさせてもらっている。面会回数が多い方には口頭での日々の報告も行っている。又、家族会でスライドショーなど行い、リビングには個々のアルバムを作成し日々の様子を伝えている。異動等は家族会で報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議・家族会・日々のご家族との会話の中で意見を頂き反映させていただいている。苦情・相談等は即座にスタッフ・法人院長・事務長に報告し速やかに対応しサービスの改善につなげている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会等の話し合いの場を確保スタッフの意見・提案を聞き、法人院長・事務長に報告し反映している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務体制については勤務作成時きめ細やかなサービス提供が出来るよう作成し不十分な場合は話し合いの場を持ち調整している。	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動の際は顔なじみのスタッフの異動をお願いしたり、入職・離職の際は家族会の場で入居者の方と共に顔合わせ・お別れ会を行い入居者の方への配慮を行っている。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修（特に認知症に関する者）には時間の許す限り参加している。又、スタッフが参加したい研修には積極的に参加している。参考文献の活用、働く上で対応に困った際には法人スタッフに助言を求めている。</p>	○	<p>段階に応じて育成する為の計画を法人として今後どのようにしていくか話し合いの場をもうけ、今以上のスキルアップの為に研修やDrによる勉強会などの機会を増やしていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修を通し同業者と交流する機会を持っているが勉強会や相互訪問などを行うまでには至っていない。</p>	○	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スタッフの希望への配慮・法人内での親睦会・スタッフ同士の親睦会などを通しストレスの軽減を図っている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>外部研修などの積極的な参加・参考文献の活用を行いホーム内外で意見交換を出来る場を確保、スタッフ一人ひとりが良い刺激を受けられるようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前の見学に訪問していただきその後、ご家族と共に本人の不安・求めていることを聴く場を儲け、ゆっくりと話す機会を作っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前の見学に訪問していただきその後、ご家族に不安・求めていることを聴く場を儲け、ゆっくりと話す機会を作っている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にゆっくりと話す機会を儲けその時必要としている支援を聞き出す努力をしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前見学・契約時などに入居者・スタッフと話す機会を儲け、入居の際には入居式を行い自己紹介等行い場の雰囲気に少しでも馴染めるよう家族の方とも相談しながら行い、安心感を持ってもらっている。	
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	センター方式を生かし、入居者の方が培ってきた経験を活かしていただきながら日々の生活を共にすることでスタッフも学ばせていただき感謝の気持ちを表し、喜怒哀楽を共にすることでお互いを支えあう関係を築いている。	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの行事の際には必ずご家族の方を誘い、喜怒哀楽を入居者・スタッフも共に分かち合えるような関係作りをしている。又、面会に来た際には、今日あった出来事などを報告させてもらい、昔話なども聞かせてもらっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会に来た際には、お茶などお持ちしゆっくりと家族水入らずで過ごしてもらっている。本人が家族に会いたいと言った時には電話などさせてもらい、話をしたり、出掛けたり出来るよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた親類・友人との関係はご家族の配慮で途切れないようになっている。馴染みの場所へは、年間行事に組み込み支援を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	難聴の方や孤立しがちな入居者の方にはスタッフが仲介に入り、関わり・支えあえるよう支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	お墓参りや、郵便物、電話、などを通じ関係が続いている。又、ホームに遊びに来てくださるご家族もいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や、センター方式、ご家族の意見を通じ常にその方の思いを頭に入れながら支援している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話、センター方式、ご家族の情報で把握できている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の状態・様子・会話・から現状の把握をし、変化があれば記録に残している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を元に入居者・家族の思いやその人らしく生活していく為の課題を把握し、7ヶ月間で話し合いをしながら介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを行い、変化があった場合にはセンター方式を再検討し、スタッフ会でも話し合い追加・削除など検討し頑丈に応じた新たな介護計画に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子を必ず記録に残すようにしており日々の様子を元に介護計画や実践の見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への受診・隣接のデイサービスとの交流・ご家族・ホームでの外出外泊等要望に応じて可能な限り支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向・必要性に応じボランティア・教育機関等と協力し支援している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	状態悪化によりホームで入浴できない方の支援を隣接デイサービスにお願いする等、必要に応じて連携し支援している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護について件資料など回覧し学んでいるが現在必要とされている方がいないため、協働するまでに至っていない。	○	今後必要になると考え、地域包括センターとの協働体制について見当をしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>入居者を知り理解してもらえ・気軽に相談できる関係作りをしていく為にスタッフ・看護師で話し合いの場を持ち相談検討していく。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>早い段階からの対応が必要になってくるため、早急に話し合いの場を持ち、全員の方針を共有するよう努力したい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現段階で別の住居に移り住んだ例は無く、病院等へ移る場合はご家族・病院関係者と十分話し合い・情報交換を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねるような対応はスタッフ全員が行はないよう徹底している。記録等の個人情報はご家族・親類のみであり、個人情報を外部評価等で開示するような場合にはご家族・本人の許可を取っている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人が思いや希望を表せるような働きかけ・自己決定は心掛けており本人に合わせた説明なども行っている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重することに関しては、押し付けのない生活を支援している。本人の希望など可能な限り応えられるよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	近所の理美容院への支援をしている。希望はもちろんのこと家族からの要望へも答えて支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	職員と一緒に食事を楽しんで食べ食事の味や好みなどを聞きながら今後の献立にも繁栄できるように配慮している。食べ方などは利用者への混乱を起こさない程度に声掛け等を行っている。		
55	お酒・タバコについては依存的になっている方がおり、ご家族の希望医師の指示により提供はしていない。依存的でない方にはビアガーデン・旅行の際にご家族の方と楽しんでいただいている。飲み物・おやつなどの嗜好の希望は聞いている。		
56	一人ひとりの排泄パターンをしっかりと把握できるように記録に残し利用者にはトイレでの排泄を全員の方に促している。		
57	入居者の希望に沿って回数や時間は提供でき、時間帯についても希望の時間に配慮している。希望夜間入浴・一番風呂など本人の希望を優先している。身体状況により午前浴を行っている方がいるが、本人・ご家族にも了解を得ている。		
58	センター方式・ご家族からの情報を元に本人に合わせた寝具・温度などを状況に合わせて支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	長年培ってきた経験を生かせる様や役割作り・一人ひとりの希望の楽しみ等可能な限り支援している。		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等において入居者本人が支払うことなどを行っている。ご家族から預かっている金銭と本人管理の金銭との2種類があり、ご家族の方も了解している。スタッフ間で相談し苑内における管理は数名の方のみである。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材を購入するなど日常的に出掛けている。又お弁当を持ち公園で昼食、散歩の希望があれば散歩に行くなどをしたりと苑から少しでも出るような環境を図っている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者が希望を訴えたときは希望をかなえるように支援している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じ又家族の希望を聞きながら日常的に電話を使用できるようにしている。又時間等を見つけては手紙などを書き家族へ近況報告をしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族の協力もあり、本人馴染みの方がいつでも訪問しやすい環境作り、居心地の良い空間作りをしている。(お茶・お菓子をお持ちする、アルバムを見ていただく等)又、スタッフが一人ひとりの馴染みの方の名前を覚えることで入居者の安心感も得られている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員同士で身体拘束の件については常にケア会議等または日常のケアの中でも話し合い絶対に行わないようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関を開放しておりどなたでも入れるような環境を作っている。見当識で「家に帰る」ということをいう方がいるが可能な限り外を歩けるような状況を作っている。職員が手薄になりどうしても施錠せざるを得ない場合などは家族の承諾を得て行っているが施錠することは極めてまれである。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中の入浴時・トイレ時などプライバシーに配慮し同姓介助での確認を心掛けている。夜間は異性対応になることも多い為、羞恥心に配慮し着替えの際など部屋のの外で見守りを行うなど、本人の希望も聞きながらスタッフ間で相談し一人ひとりに合った対応を心掛けている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご家族やスタッフ間で相談し注意の必要な物品の配置の工夫や見守り使用等行い状況を記録に残し一人ひとりの状態に合わせた取り組みをしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	火災等については、防災管理マニュアル、防災訓練を実施し、その他の事故防止策はひやりはっと及び事故報告書作成しており今後の再発防止・ケア計画に組み込む等一人ひとりの状況に合った対策をしている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	スキル向上のために所轄消防署救急隊員による救急講習を実施したが定期的ではない。	○	定期的に行い更なるスキル向上と入居者の安全の確保に努める。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災管理マニュアルの作成・防災訓練など美視しているが、日頃より域の人々の協力を得られるような働きかけはしていない。	○	今後早急に地域運営推進会議等で話し合いの場を持ち、地域住民の協力を得られるよう、働きかけていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	近況報告お便り、面会時での状況報告の際に今後起こり得るリスク等を説明させていただいている。又、院長・ケアマネ等の意見も聞き、ご家族に説明させている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の声・訴えバイタルなどを通して身体状況を把握し、判断を仰ぎたいときには院長に電話連絡をし、対応を行っている。又、必ず記録に残し情報を共有している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通りの薬を服薬して症状の変化を記録に残している。しかし、入居者一人ひとりの薬の副作用までは把握できていないように感じる。	○	薬の副作用、用法用量についてスタッフ間で勉強していく必要がある。不明な点があれば医師に勉強会などを開いていただく。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘による不快感は常にスタッフ間で話し合うこととしており、食事後の排便誘導・飲食物等・排便チェックの対応をしっかりと行っている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを促しており入居者一人で出来ない状況にある方はスタッフが一緒に行うなど対応している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士に勉強会・指導していただき栄養バランスを考えた献立を作成している。食事チェックも行い、摂取量が少ない場合には、本人の好きな軽食などを提供している。水分はこまめな摂取を促し、足りない分は好みのものを提供し補っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	医療法人杏仁会の医院の指導の下で取組みは標準化している。講師を招きご家族・スタッフで学習会を実施し、その後も勉強会などを行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	法人の栄養士に勉強会・指導していただき使用後の調理器具の消毒を徹底している。食材については週3日買い物に行き、刺身などの痛み易いものは、当日買い、使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門に入りやすい工夫として看板を設置している。又、たて物周辺にはたくさんの花が植えてあり親しみ易くなっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダウンライトの使用やよしずなどを活用し季節感や空気の演出と共に光の調節をし十分に明るいながらも落ち着いた雰囲気を作っている。無駄にテレビをつけっぱなしにしたりせず、積極的娯楽として適切な音量を保っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間が和風洋風の二箇所、またダイニングやテレビの前の空間、ウッドデッキのある中庭などが用意され状況に応じて自由に共用空間を個別に使うことが出来る。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

理念にも掲げてあるが、入居者・ご家族一人ひとりが安心して生活していける場所を目指している。本人のペースに合わせ、ゆっくりとした時間を大切にし、ホームをもう一つの我が家と思っていただけるような関係作り・環境作りを行っている。又、多くのご家族の協力を得られ、意見・苦情等様々なことを言い合える関係になっており、信頼関係も出来ている。全スタッフが心のふれあいを大切に、入居者一人ひとりを理解しており自分の家族のように接している。日々感謝の気持ちを忘れることなく、温かい雰囲気のあるホームである。